

鐵甲
一一

昭和十三年七月十六日

内閣書記官長



內閣書記官



壬子年七月二十日

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

西

陸軍大臣

海

文部大臣



遞信大臣

厚生大臣

五

內務大臣

氣

海軍大臣

五

農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣

司法大臣

商工大臣



拓務大臣

五

別紙内務鐵道兩大臣請議陸上交通事業
調整法施行令制定ニ關スル件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕陸上交通事業調整法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年七月二十二日

内閣總理大臣

内務大臣

鐵道大臣

呈案附箋ノ通

文書主
監署局總務課
山脇書記官

法制局鐵第九號
昭和十三年七月十二日

監第六五〇七號

昭和十三年七月十二日

鐵道大臣 中島 知久 平

内務大臣 末次 信



内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿 殿

閣議稟請

陸上交通事業調整法施行令制定ニ關スル件

鐵甲

鐵道省

昭和十三年法律第七十一號陸上交通事業調整法施行ニ當リ陸上交通事業調整法施行令ヲ制定セントス仍テ別紙勅令案竝ニ理由書ヲ具シ閣議ヲ請フ

勅令第五百十七號

陸上交通事業調整法施行令

第一條 陸上交通事業調整法第二條第一項ノ主務大臣ハ鐵道大臣及内務大臣トス

第二條 陸上交通事業調整法第二條第二項、第三條、第五條、第六條及第十二條ノ主務大臣ハ左ノ各號ニ依ル

一 地方鐵道事業ニ付テハ鐵道大臣トス

二 軌道事業ニ付テハ鐵道大臣及内務大臣トス但シ軌道法第十

一條ニ規定スル事項ニ付テハ鐵道大臣トス

三 自動車運輸事業ニ付テハ鐵道大臣トス



陸上交通事業ト密接ナル關係ヲ有スル兼業ニ付テハ當該陸上交通事業ノ所管ニ依リ鐵道大臣又ハ內務大臣トス

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ對シ陸上交通事業調整法第二條第二項ノ規定ニ依リ勸告若ハ命令ヲ爲シ又ハ同法第三條ノ規定ニ依リ認可若ハ裁定ヲ爲ス場合ニ於ケル主務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラズ鐵道大臣及內務大臣トス

第三條 左ノ場合ニ於テハ鐵道大臣ハ內務大臣ニ協議スベシ

一 陸上交通事業調整法第六條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲サントス

ルトキ

二 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノガ陸上交通事業調整法第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ陸上交通事業ヲ經營スル會社ノ株主若ハ債權者ト爲リ又ハ其ノ會社ニ事業ノ管理ヲ委託シタル場合ニ於テ其ノ會社ニ對シ同法第二條第二項ノ規定ニ依リ勸告若ハ命令ヲ爲シ又ハ同法第三條ノ規定ニ依リ認可若ハ裁定ヲ爲サントスルトキ

三 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ對シ又ハ此等ノ公共團體ガ陸上交通事業調整法第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ陸上交通事業ヲ經營スル會社ノ株主若ハ債權

者ト爲リ又ハ其ノ會社ニ事業ノ管理ヲ委託シタル場合ニ於テ
其ノ會社ニ對シ同法第十二條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲サントス
ルトキ

四 陸上交通事業調整法第三條第二項ノ規定ニ依リ自動車運輸
事業ノ免許ニ該當スル認可ヲ爲サントスルトキ

附 則

本令ハ陸上交通事業調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

昭和十三年法律第七十一號陸上交通事業調整法施行ニ當リ鐵道内
務兩省ノ密接ナル連絡ヲ圖リ以テ運用ノ圓滑ヲ期スル爲陸上交通
事業調整法施行令制定ノ要アルニ依ル

參照

陸上交通事業調整法案

昭和十三年四月
法律第七十一號

總理大臣 鐵道
內務大臣 副書

陸上交通事業調整法

第一條 本法ニ於テ陸上交通事業トハ地方鐵道事業、軌道事業、自動車運輸事業其ノ他勅令ヲ以テ指定スル事業ヲ謂フ

第二條 主務大臣公益ノ増進ヲ圖リ陸上交通事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲陸上交通事業ノ調整ヲ爲サントスルトキハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ調整ノ區域、調整スベキ事業ノ種類及範圍^(之ト密接ナル關係ヲ有スル事業ノ範圍)並ニ左ノ各號ニ依ル調整ノ方法ヲ決定スベシ

一 會社ノ合併又ハ設立

二 事業ノ讓受又ハ讓渡

三 事業ノ共同經營

四 事業ノ管理ノ委託又ハ受託

五 連絡上必要ナル線路其ノ他ノ設備ノ新設、變更又ハ共用

六 運賃又ハ料金ノ制定、變更又ハ協定

七 連絡運輸、直通運輸其ノ他運輸上ノ協定

八 用品其ノ他ノ共同購入、共同修繕其ノ他調整上必要ト認ムル方法

主務大臣ハ前項ノ決定ニ依リ陸上交通事業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ實施ヲ勸告シ又ハ同項第二號乃至第八號ノ事項ノ實施ヲ命ズベシ

第三條 陸上交通事業經營者前條第二項ノ勸告ニ依リ主務大臣ノ指定スル期間内ニ協定ヲ爲シタルトキハ之ガ認可ヲ申請スベシ

陸上交通事業經營者前條第二項ノ命令ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ協定ヲ爲シ之ガ認可ヲ申請スベシ協定成立セザルトキハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ協議調ハザル事項ヲ裁定ス

主務大臣前項ノ裁定ヲ爲サントスルトキハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵スベシ但シ重要ナラザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

主務大臣第二項ノ裁定ヲ爲シタルトキハ關係陸上交通事業經營者ニ之ヲ通知スベシ

第四條 交通事業調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル調整ノ區域内ニ於ケル陸上交通事業經營ノ免許又ハ特許ニシテ重要ナルモノハ主務大臣交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ爲スベシ

第六條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ調整ノ區域内ニ於ケル主要ナル陸上交通事業ヲ包括シ經營スルニ至リタル會社ニシテ勅令ニ依リ指定スルモノノ定款ノ變更、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ陸上交通事業ヲ經營スル會社ノ株主若ハ債權者ト爲リ又ハ其ノ會社ニ事業ノ管理ヲ委託

シタル場合ニ於テハ北海道廳長官、府縣知事又ハ市町村長其ノ他之ニ準ズベキ者ハ其ノ指名スル吏員ヲシテ商法ノ定ムル選任方法ニ依リ其ノ會社ノ取締役又ハ監査役タラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第七十七條及第七十八條又ハ町村制第六十五條及第六十六條若ハ之ヲ準用スル北海道一級町村制第一條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ依リ會社ノ取締役又ハ監査役ト爲リタル者吏員タル身分ヲ失ヒタルトキハ取締役又ハ監査役ノ職ヲ失フ

第八條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 會社ノ設立又ハ資本増加

金錢出資ニ依ル拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資

ニ依ル拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社ノ設立若ハ資本増加又ハ陸上交通事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

第九條 地方鐵道法、軌道法、自動車交通事業法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ免許、特許、許可又ハ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノニ付テハ第三條又ハ第六條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該法令ノ規定ニ依ル免許、特許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十條 第三條第二項ノ裁定アリタル場合ニ於テ第二條第一項第二號ノ讓受ノ價額、同項第

三號ノ共同經營ニ於ケル收得若ハ負擔ノ金額ノ割合又ハ同項第四號ノ管理ノ報酬金額ニ付不服アル者ハ協定ノ相手方ヲ被告トシ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴訟ハ第二條第二項ノ命令及第三條第二項ノ裁定ノ效力ヲ停止セズ

第十一條 第二條第二項ノ規定ニ依リ事業ヲ讓受ケタル者前條ノ規定ニ依リ出訴シタル場合ニ於テハ裁定ニ基ク讓受價額ト自己ノ見積價額トノ差額ニ相當スル金錢ヲ供託スルコトヲ得

第十二條 陸上交通事業經營者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 他人ヲシテ事業經營者ノ計算ニ於テ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三 事業ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲サシムルコト

四 免許又ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

参照

軌道法

大正十年四月
法律第七十六號

(總理、内務、鐵道
大臣副署)

第十一條 軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金並運轉
速度及度數ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金、運轉速度、度數
又ハ發着時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

諒解事項

(未定稿)

(一三、七、四)

日本標準規格B4列(十一行全)(富井納)

一 左ノ場合ニ於テハ鐵道大臣又ハ内務大臣ハ逓信大臣ニ協議スルモノトス

(一) 陸上交通事業調整法第二條第一項ノ規定ニ依ル決定ヲ爲ス場合ニ於テ當該事項ガ電氣事業法ニ基キ逓信大臣ノ許可又ハ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノニ該當スルトキ

(二) 地方鐵道事業又ハ軌道事業竝ニ之ト密接ナル關係ヲ有スル兼業ノ經營者ニ對シ陸上交通事業調整法第三條ノ規定ニ依リ認可若ハ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該事項ガ電氣事業法ニ基キ逓信大臣ノ許可又ハ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノナルトキ

(三) 陸上交通事業調整法第二條ノ規定ニ依リ電氣供給事業ノ共同經營又ハ管理ノ委託若ハ受託ノ決定ヲ爲サントスルトキ又ハ其ノ決定ニ基キ同法第三條ノ規定ニ依リ認可若ハ裁定ヲ爲サントスルトキ

二 左ニ掲グル場合ニ於テ其ノ事項ガ電氣供給事業ニ關係ヲ有スルモノナルトキハ鐵道大臣又ハ内務大臣ハ豫メ逓信大臣ト打合ヲ爲スコト

(一) 陸上交通事業調整法第二條第二項ノ規定ニ依リ勸告又ハ命令ヲ爲サントスルトキ

(一) 陸上交通事業調整法第六條ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキ
 (二) 其ノ他陸上交通事業調整法ノ運用ニ付重要ナル處分ヲ爲サントスルト
 キ又ハ之ニ基テ命令ノ制定若ハ改廢ヲ爲サントスルトキ

拓甲第三二號

案 起
昭和十三年三月十六日

閣議
決定 昭和十三年三月十六日 施
裁可 昭和十三年三月十六日 行

昭和十三年三月五日
公布

内閣總理大臣 廣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣	逓信大臣	厚生大臣
興	重	出	柳太	出
内務大臣	海軍大臣	農林大臣	鐵道大臣	
重	尾	出	出	
大藏大臣	司法大臣	商工大臣	拓務大臣	
興	出	出	出	

別紙兩院ノ議決ヲ經タル樺太地方鐵道補助法
 中改正法律 案ヲ審査スルニ右ハ貴族院